

先端通信技術を用いた自動運転の実証実験を実施します

横浜市では、様々な企業・スタートアップ等と連携を図りながら、オープンイノベーションにより付加価値の高い製品・サービスの開発や新たなビジネスの創出、新技術を活用した社会課題解決に取り組んでいます。

その一環として、NTTコミュニケーションズ株式会社を代表機関とした9社で構成されるコンソーシアムが、バスを用いた自動運転の走行実証をよこはま動物園付近にて実施します。本実証は、自動運転車両の周囲の環境の把握や遠隔監視等のための通信に新技術を使用することで、より安全な走行の実現を目指すものです。

一般試乗期間中は事前予約をすることで体験乗車ができます。

なお、本実証は総務省の「地域デジタル基盤活用推進事業（自動運転レベル4検証タイプ）」に採択されて実施するものです。

期間	実証実験期間：令和6年9月30日（月）～10月8日（火） 一般試乗期間：令和6年10月1日（火）～4日（金）、7日（月）、8日（火） 運行時間：10時30分～16時30分（30分間に1往復程度運行）
実証の趣旨	本実証は、主に自動運転の実現に必要な遠隔監視や道路周辺環境を把握するセンサーなどの通信技術の検証を目的として行います。実証に際しては運転士が乗車し、必要に応じて手動介入して安全に運行します。
ルート	よこはま動物園（ズーラシア）正門5番バス停 → 北門バス停（乗降なし） → 正門5番バス停 ※約2kmの区間
遠隔監視	相鉄バス旭営業所にて実施（※一般公開はしません。）
実施企業	NTTコミュニケーションズ（株）：全体管理 相鉄バス（株）：運行管理 先進モビリティ（株）：自動運転バスの走行にかかる設計、調律 （株）東海理化、スタンレー電気（株）、パナソニックコネクト（株）、ドコモ・テクノロジー（株）、NTTテクノクロス（株）、（株）NTTデータ経営研究所、NTTアクセスサービスシステム研究所

お問合せ先

【実証実験全体に関すること】

NTTコミュニケーションズ株式会社 ビジネスソリューション本部 第五ビジネスソリューション部
E-mail autonomous-bus-level4@ntt.com

【実証実験支援に関すること】

経済局イノベーション推進課担当課長 高木 秀昭 Tel 045-671-4904

※本件は、経済記者クラブへも同時発表しています。

※本件は、実証の実施主体であるNTTコミュニケーションズ（株）をはじめとするコンソーシアムと同時発表しています。

裏面あり



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



参考

試乗について

運行区間

よこはま動物園（ズーラシア）正門5番バス停から、北門バス停を經由して、正門5番バス停まで1周します。

※里山ガーデン会場には行きません。

利用料

無料

乗車定員

10名

乗車方法

試乗専用予約サイトより事前予約が必要です。

https://coubic.com/level4_verification/4625554

- ・10月1日（火）～4日（金）、7日（月）、8日（火）
- ・時刻表については、乗車予約サイトをご参照ください。
- ・天候などの影響により手動運転への切り替えもしくは運休する場合があります。



試乗専用予約サイトはこちら→



車両イメージ



日野自動車株式会社製「ポンチョ」

台数	1台
自動運転レベル	レベル2
試乗枠の定員	10人
センシングデバイス	3DLiDAR 8台、ミリ波レーダー1台、物体検知カメラ 10台
走行可能環境	天候：晴天、曇天、雨天（小雨）
	照度：130lx以上



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



実証実験の内容

自動運転車両は、周囲の環境を常時把握することで安全な走行を実現します。受信するデータは、LiDARなどの車両に搭載しているセンサーや、カメラによる動画データをリアルタイムで検知し分析するため、大容量データの安定した即時送受信が必要です。以下2つの検証は、そのような自動運転における通信面の課題解決に資するものです。

1 運行管理システムの実現に向けた通信システムの検証

ルート内の道路脇植栽エリア3箇所にローカル5G基地局及びWiGigを活用した中継局を設置しました。本実証では、複数のネットワークを組み合わせせた通信システムや、映像伝送の遅延を最小限に抑えるシステムの検証を行います。

2 路車協調による安全な運転サービスの実現に向けた路肩情報の活用検証

走行区間の一般車両や歩行者などの路肩情報を集めて車両の制御に活用するため、既設の道路灯を物体検知が可能なスマート道路灯に置き換えました。本実証では、死角の多い環境において、自動運転車両の情報と路肩情報を組み合わせせた運行監視の活用性について検証します。



※スマート道路灯：従来の道路照明灯とは異なり、灯具機能に加え、筐体組み込み型 AI カメラや環境センサー、路面描画装置を搭載した次世代の道路照明灯

YOKOHAMA Mobility Innovation

横浜市は、自動車関連企業が集積している強みを生かし、「モビリティ」を重点分野として位置づけ、「イノベーションの推進・スタートアップの成長支援」に取り組んでいます。「YOKOHAMA Mobility Innovation」は、国内外のスタートアップや事業会社、技術者、研究者、支援者等が横浜に集まり・つながることで、モビリティ分野でイノベーションが生まれるコミュニティを目指しています。



GREEN x EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

